

Ⅲ 基本計画検討の経過

1 基本計画検討の経過

(1) 検討内容

新総合計画基本計画の策定に当たっては、第一に市民の生活実感に基づく「気づき」を収集し（約 42,000 項目）、行政実感に基づく「行政政策の棚卸し※³」（136 項目）、市民の様々な活動実感に基づく「地域活動の棚卸し」（451 項目）と合わせ、83 項目の「ふじさわ未来課題」として集約しました。

次に、「ふじさわ未来課題」の充足度（実現度）及び重要度による重み付けを行うためのアンケート調査を実施し、取り組むべき「重点・ふじさわ未来課題」を明らかにしました。

その後、「重点・ふじさわ未来課題」の示す「あるべき姿」を検討し、市域全体のまちづくり計画の戦略目標と政策及び地域まちづくり計画の地域まちづくり目標と地域まちづくり活動を明らかにし、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業等と行政といった多様な活動主体が協働と連携により行動していくための指標、現状値、めざそう値、役割の担い手（役割期待）の設定を行います。

これらの検討は、市民力、地域力、行政力による三層構造の会議体を中心に行われています。

(2) 三層構造の会議体による検討内容

行政は、地域経営戦略 100 人委員会などの検討内容をふまえ、地域経営会議や市民などの声を聞きながら市域全体のまちづくり計画（案）を策定します。

各地区の地域経営会議と市民センター・公民館は、地域経営戦略 100 人委員会等での検討内容をふまえ、「地域市民」の声を聞きながら、地域まちづくり計画（案）を策定します。

地域まちづくり計画（案）は、市民の生活者の実感に基づく課題整理と分析による、地域まちづくりの方向性を示す計画とします。

このうち地域経営会議は、各市民センター・公民館とともに、地域経営戦略 100 人委員会での議論をふまえ、「地域市民」の意見等を聞きながら、「地域まちづくり計画（案）」を策定して、総合計画審議会に提出します。

また、討論型世論調査（市民 1000 人調査・200 人討論）の手法を用いて、市民の皆様から藤沢の未来のあり方についての意見をいただくためのアンケート調査と討論フォーラム「藤沢の選択、1 日討論」を実施し、その結果を総合計画審議会に提出します。

総合計画審議会は、会議体からの「新鮮な発見」や「議論の素材」、「市域全体のまちづくり計画（案）」、「地域まちづくり計画（案）」などの提案及び「藤

※³ 棚卸し：この場合は、政策や活動の種類、実施状況などを調査し、評価することをいいます。

「藤沢の選択、1日討論」の結果をふまえた上で、基本計画を策定します。

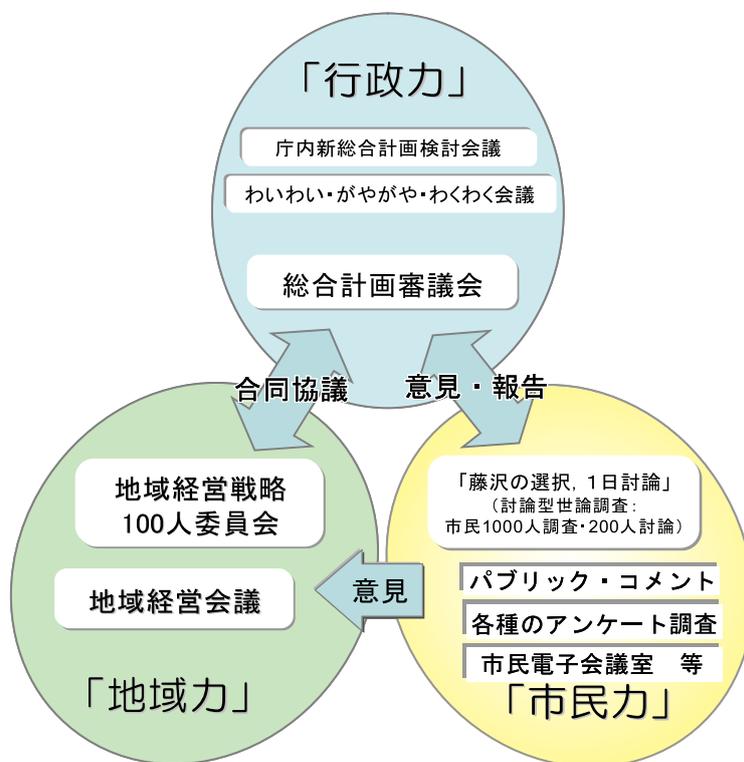


図3 「市民力」「地域力」「行政力」の相関図

2 ふじさわ未来課題

「ふじさわ未来課題」は、将来像を実現する9つの「藤沢づくり」のめざす方向性と3つの活動領域を具体化したもので、基本計画の大きなテーマとなります。

「ふじさわ未来課題」は、各地区での行動と全市の行動の相乗効果を促す、まちづくりの共通課題として位置づけます。

3 「ふじさわ未来課題」の導き方

「ふじさわ未来課題」は、地域経営戦略100人委員会と地域経営会議が収集した市民の生活実感調査（「気づき」調査、約42,000項目）、行政政策の棚卸（行政課題）からの行政実感（136項目）、地域活動の棚卸（地域課題）として地域団体や市民活動団体、NPOなどの活動趣旨や目的から収集した地域活動の実感（451項目）を、9つの「藤沢づくりのめざす方向性」と課題領域のマトリックス表（集約表）に基づき83項目に集約したものです。

4 ここに重点！未来へのステップ調査・分析

「ふじさわ未来課題」について、選択と集中を図り、より効果的な未来投資と暮らしやすさを向上することを目的として、「ふじさわ未来課題」がどの程度できているかを示す充足度（実現度）と「ふじさわ未来課題」としてどのくらい大切に感じているかを示す重要度に関するアンケート調査（ここに重点！未来へのステップ調査）を実施しました。

「ふじさわ未来課題」は、「ここに重点！未来へのステップ調査」によって、「どの程度できているか」を測る充足度（実現度）と「どれくらい大切なものか」を測る重要度によって、その姿の位置づけを分析しました。

その結果として、この基本計画においては、次の2つに位置づけられた「ふじさわ未来課題」を中心に「重点・ふじさわ未来課題」として、実現、改善に向けた目標を設定します。

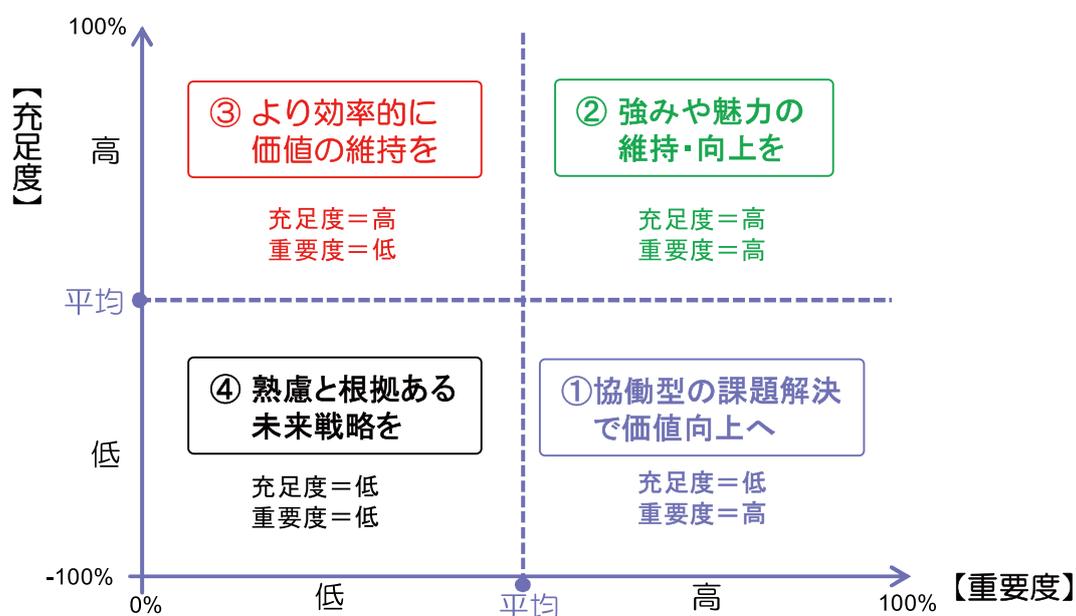


図4 充足度・重要度グラフ

① 協働型の課題解決で価値向上へ

「大切なもの（＝重要度が高い）」として考えられているにもかかわらず、「できていない（＝充足度が低い）」と考えられている「ふじさわ未来課題」であり、課題解決によって、生活価値の向上が得られる期待やチャンスに溢れています。重要度が高いため、改善に取り組むことで、充実感、共感を得られる可能性が高い取り組みでもあることから、効果的な参加・協働の方法を推進することで、市民参加や協働による活動への期待が持てるため、「重点・ふじさわ未来課題」として位置づけ、様々な主体の協働による試行錯誤や工夫による活動を目指します。

② 強みや魅力の維持・向上を

「できている（＝充足度が高い）」という回答が多く、かつ「大切なもの（＝重要度が高い）」と考えられている「ふじさわ未来課題」です。

「大切なもの」でかつ「できている」との回答を得ているため、この分類にある「ふじさわ未来課題」は、藤沢市や各地区の特長や魅力として考えることや、これまでの施策や活動が評価を得ていると考えることができます。

強みや魅力がある項目として、更なる取り組みを通じて、生活価値の一層の向上に期待できるものであり、位置づけや取組方法、未来投資のあり方などを検討した上で「重点・ふじさわ未来課題」として位置づけます。

③ より効率的に価値の維持を

「できている（＝充実度が高い）」が、「大切なものとしての優先順位が低い（＝重要度が低い）」とされている「ふじさわ未来課題」です。

特定の地域、世代で大切に思われているケースもあります。その場合は、効率的な取り組みによって価値を維持することが望ましいと考えられます。

④ 熟慮と根拠ある未来戦略を

「できていない（＝充足度が低い）」が「大切なものとしての優先度が低い（＝重要度が低い）」とされている「ふじさわ未来課題」で、将来、課題となる可能性もあります。

市民の身近な生活実感からは、相対的に「優先度が低く」なる可能性があるものも考えられるため、明確かつ具体的な根拠をもとに課題に取り組む必要性があります。

5 全市と地域で検討する「ふじさわ未来課題」の仕分け

(1) 市域全体の「重点・ふじさわ未来課題」の抽出

「ここに重点！未来へのステップ調査」の分析や将来予測に基づく課題等を踏まえ、市域全体のまちづくりを計画的に推進するため、「ふじさわ未来課題」の深掘り（分析）を行い、次の条件を基本に、市域全体のまちづくり計画における「重点・ふじさわ未来課題」を抽出します。

ア 「① 協働型の課題解決で価値向上へ」「② 強みや魅力の維持向上を」の象限に位置づけられた「ふじさわ未来課題」については、その象限の意味合いを踏まえた上で、基本構想に示す、9つの「藤沢づくりのめざす方向

性」の実現をはかる上で重要な課題を市域全体の課題として検討します。

イ 「④熟慮と根拠ある未来戦略を」の象限に位置づけられた「ふじさわ未来課題」及び実感を積み重ねて分析した「ふじさわ未来課題」の検討活動からは出てきにくい課題については、基本構想を前提に全市的な戦略として取り組む必要のある課題及び将来予測や行政政策の棚卸し等をふまえ、明確かつ具体的な根拠があるものについては、市域全体の「重点・ふじさわ未来課題」として検討します。

ウ 地区ごとの「重点・ふじさわ未来課題」として抽出された課題の中から、地域まちづくり計画へ位置づけるよりも、市域全体のまちづくり計画へ位置づけた方が好ましいものについては、市域全体のまちづくり計画での位置づけを検討します。

(2) 各地区の「重点・ふじさわ未来課題」の抽出

各地区における個性、特長を活かした地域内分権のまちづくりを計画的に推進するため、「ここに重点！未来へのステップ調査」の地区単位での分析を踏まえ、「ふじさわ未来課題」の分析（深掘り）を行い、次の条件を基本に地域まちづくり計画における「重点・ふじさわ未来課題」を抽出します。

また、地域まちづくり計画における課題の状況をふまえ、地域間連携、地域経営の一層の推進を図るよう、相乗効果を狙いつつ市域全体のまちづくり計画における課題を検討します。

ア 各地区での分析において「①協働型の課題解決で価値向上へ」「②強みや魅力の維持・向上を」の象限に位置づけられた「ふじさわ未来課題」のうち、市域全体の分析結果にはなく、特定の地区の分析結果にのみ存在する課題については、当該地区の特色が出ている可能性が高いため、当該地区の「重点・ふじさわ未来課題」として検討します。

イ 「①協働型の課題解決で価値向上へ」「②強みや魅力の維持・向上を」の象限に位置づけられた「ふじさわ未来課題」のうち、市域と地域の分析ではともに同一象限内にあるものの、特定の地区での位置づけ（値）が顕著なものについては、当該地区の特色が出ている可能性が高いため、当該地区の「重点・ふじさわ未来課題」として検討します。

ウ 「④熟慮と根拠ある未来戦略を」の象限に位置づけられた「ふじさわ未来課題」及び実感を積み重ねて分析した「ふじさわ未来課題」の検討活動からは出てきにくい課題は、これまでの地域でのアンケート等から明確かつ具体的な根拠があるものについては、地区の課題として検討します。

(3) 市域全体のまちづくり計画と地域まちづくり計画の目標設定

市域全体のまちづくり計画と地域まちづくり計画において、次の目標を設定します。

表 1 目標の名称

| 内容 | 市域全体のまちづくり計画での名称 | 地域まちづくり計画での名称 |
|--|------------------|---------------|
| 「ふじさわ未来課題」の達成に向けて、市域・地域ごとの特性や課題の分析（深掘り）から導かれる、目標とするあるべき姿（基本的に12年間） | 戦略目標 | 地域まちづくり目標 |
| 目標を実現するために求められる状況の分析から導かれる、目標をより具体化した活動の指針（基本的に3年間から6年間） | 政策 | 地域まちづくり活動 |

(4) 市域全体のまちづくり計画と地域まちづくり計画の指標設定

「どのくらい達成できているか」を測るための指標を設定します。

ア 指標の定義

指標は、目標とするあるべき姿を定義した「戦略目標」「地域まちづくり目標」や目標をより具体化した活動の指針である「政策」「地域まちづくり活動」の実現度を測るものとして設定します。数値で表すものとし、アウトカム（成果）の考えに基づくものとします（成果指標）。

「戦略目標」に対する指標を「市域まちづくり指標」、「地域まちづくり目標」に対する指標を「地域まちづくり指標」としています。

イ 指標の種類

指標は、目標や活動の指針のそれぞれの成果を測るために、次のとおり設定します。それぞれの値は、アンケート調査や実際に活動を行う市民、市民ボランティア、NPO へのインタビュー等によって設定したものです。

この指標値は、様々な主体が「重点・ふじさわ未来課題」や目標、活動の指針に向けて取り組み、それぞれの活動の全体としての実現する成果を表すもので、点検活動によって、その取り組みの改善を図っていくための共通の目標であり、特定の主体に具体的な義務を課すものではありません。

表 2 指標の種類

| 計画区分 | 目標・活動 | まちづくり指標 | | |
|--------------|-----------|---|-------------------------------------|---|
| 市域全体のまちづくり計画 | 戦略目標 | 現状値 現在の状態を表します。 | めざそう値 目標年次までにあるべき状態を表します。 | 役割の担い手 担い手として期待される活動の主体を示します。 |
| | 政策 | 成果の視点 どのような活動により、どのような状態になることが望ましいかを示します。 | | |
| 地域まちづくり計画 | 地域まちづくり目標 | 現状値 現在の状態を表します。 | めざそう値 目標年次までにあるべき状態を表します。 | 役割の担い手 担い手として期待される活動の主体を示します。 |
| | 地域まちづくり活動 | 成果の視点 どのような活動により、どのような状態になることが望ましいかを示します。 | | |

6 「藤沢の選択、1日討論」(討論型世論調査) 結果の概要

2010年(平成22年)8月28日に「藤沢の選択、1日討論」(討論型世論調査)を実施しました。

この調査では、市民一人ひとりが市民力を発揮するための課題点や可能性についての討論を行い、「私たちの政府」の主体としてどのような形で藤沢を良くし、暮らしやすいまちにすることができるかについての調査を行いました。